

第 33 回全道学生親睦会 実施報告書

平成 23 年 8 月 29 日(月)～30 日(火)，株式会社植松電機に於いて日本機械学会 北海道学生会の上
半期総会ならびに全道学生親睦会が行なわれた。以下に実施概要と活動の様子を示す。

上半期総会は植松電機敷地内会議室で行なわれた。参加者は計 17 名であった。メカライフの世界展，卒業研究発表講演会などについて意見が交わされた。詳細は総会議事録を参照されたい。

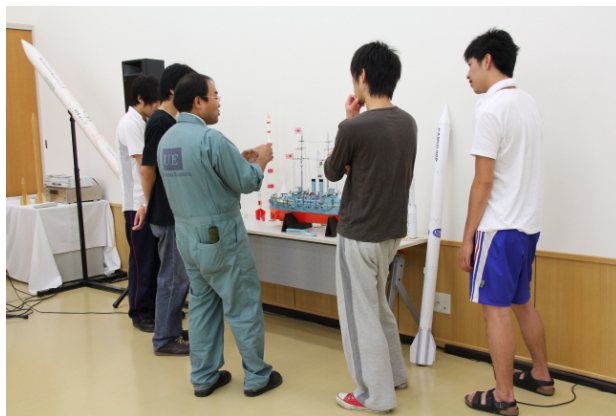


その後，研修室にてペーパークラフト CAMUI
ロケットの製作を行なった。スライドでモデルロ
ケットについての説明を受けた後，カッターナイ
フや定規，ハサミやキリを用いて製作を開始した。
各テーブルに見本と，各自に説明書を配布しても
らい，製作時間 2 時間の予定で製作を進めていっ
た。製作を始めてみると思った以上にペーパーク
ラフトには技術を要し，特に筒状の機体を作る場
面では互いに教えあったり社員の方に質問をし
たりというやりとりも見られた。2 時間では足り
ないという者も多く，翌日の打上げまでは作業が
可能な状態にして頂いて夕食準備へと移った。

夕食は焼肉ということで，焼肉セットとビールサー
バを地元の精肉業者の方に手配して頂いていた。参加
者は積極的に各大学・高専間の情報交換をしたり日頃
の学生生活の話を
聞いたりしていた。
途中から植松努専
務にもご参加頂き，
学生時代の話を聞
くなど非常に盛会
となった。



エルム高原温泉「ゆったり」で汗を流したあと(折しも世界陸上でハンマー投げの室伏選手が決勝を戦っているところで、投擲の瞬間は皆テレビに釘付けになっていた)、植松電機に戻り懇親会へ移行した。幾人かはペーパークラフトの製作を引き続き行い、特に色を塗ったり模様を塗ったりするところで凝っていた。また、研修室のペーパークラフトやプラモデルについて熱心に植松専務の説明を聞いている者もいた。

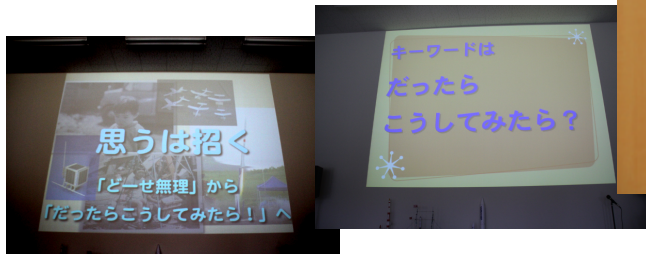


懇親会場では、研究テーマや研究室生活の話から、それぞれの居住都市の話まで幅広い交流が行なわれた。植松専務の話には多数の学生が興味深く耳を傾け、夜遅くまで活発な議論が交わされていた。晴れていれば天体観測の予定であったが、残念ながら雲がかかってしまい今回は室内での交流となった。



2日目の朝は朝食の後各部屋を清掃し、社員の方と共にラジオ体操を行なった。学生は久しぶりに朝ラジオ体操をしたという者が大半だったようである。

体操の後は研修室で植松専務の特別講演会が行なわれた。教育の話やものづくりに関わる学生に向けた話など、非常に濃密な内容で参加者は真剣に聞き入っていた。質疑応答も活発に行なわれていた。



講演会の後は、植松電機の主力製品である電磁石のデモンストレーションを見学した。スライドで、外部電源なし、搭載バッテリーだけで駆動する省電力の電磁石を開発するに至った経緯や他社製品との差異などを聞いた後、実際に鉄製常盤を持ち上げるところや、リサイクル用途ということでスチール缶を選別・回収するところなどを見せて頂いた。



電磁石の見学の後は、微小重力実験棟の見学とCAMUI ロケットモータ燃焼実験の見学を行なった。微小重力実験棟では、分離機構やエアブレーキの説明を受けた後に実際に落下実験を見せて頂いた。エアブレーキングの際は事前に大きな音がすると聞いていても驚くほどの音が鳴り、歓声が上がっていた。CAMUI ロケット燃焼実験見学では、推力90kgf級モータの燃焼実験を見せて頂いた。スライドではハイブリッドロケットの利点や、他のハイブリッドロケットに対するCAMUI ロケットのアドバンテージ、これまでの打上げ実績などをレクチャー頂いた。燃焼時間は約4秒で、微小重力実験よりもさらに大きな音と激しい燃焼を目の当たりにして、見学者は感心半分、驚き半分、といった様子であった。



プログラムの最後として、製作したペーパークラフトCAMUI ロケットの打上げを行なった。打上げのレクチャーを受けた後2人ずつ点火コントローラを握り、安全確認の後点火、打上げを行なっていった。ロケットは約100m程上昇し、打上げの都度歓声が上がっていた。パラシュートが開かない機体もあったが、モータを変えて250m上昇した最後の機体も含め全機無事に打ちあがり、今回の親睦会を締めくくった。

